

物語
近現代ギリシヤの歴史

村田奈々子
(中公新書 2012年) 292ページ

220781062 山本美桜

目的

- ① オスマン帝国からの独立後の様子
- ② ギリシャのアイデンティティの模索
- ③ 古代ギリシャと現代ギリシャ

⇒ 古代ギリシャの輝きから現代までの数奇な歴史から
ギリシャの今を理解

序章 古代ギリシヤの影

エルギン・マーブル返還問題
⇒ 古代ギリシヤのシンボルが
現代のギリシヤを維持

今日のギリシヤ≠当時のギリシヤ



第1章

独立戦争と列強の政治力学

1. 1821年3月 **ギリシャ独立戦争**
 - a. キリスト教とイスラム教の宗教戦争の側面
 - b. 復古的なウィーン体制反対派の捌け口
2. イギリスの詩人 バイロン卿
親ギリシャ主義の火付け役



第1章

独立戦争と列強の政治力学



1. 統一した指揮官の不足

食い違う未来像による内戦が多発

⇒ 独立にはヨーロッパ列強の支援が不可欠

2. 列強の和平条約による終戦

◎ 1827年10月20日 ナヴァリノの海戦

⇒ 結果的にギリシャの独立は列強の都合の副産物

第2章

コンスタンティノーブル獲得の夢

1. 首都問題

- a. 栄光の古代ギリシャ世界の象徴 **アテネ**
- b. ビザンツ帝国の首都 **コンスタンティノーブル**

2. ギリシャ人の夢へと変化

⇒ 近代ギリシャ独自のアイデンティティの形成の源

最終的な首都はアテネ、コンスタンティノーブルも未獲得

第3章

国家を引き裂く言語



1. 1901年 福音書事件

- a. ギリシャ語内での翻訳
- b. 古代ギリシャと正教キリストへの攻撃

2. 1903年 オレスティア事件

アイスキュロス作『オレスティア』の口語ギリシャ語上演

⇒ ギリシャ語は当時のギリシャ人のアイデンティティ

第4章

闘う政治家ヴェニゼロスの時代

1. ギリシャ人政治家 ヴェニゼロス

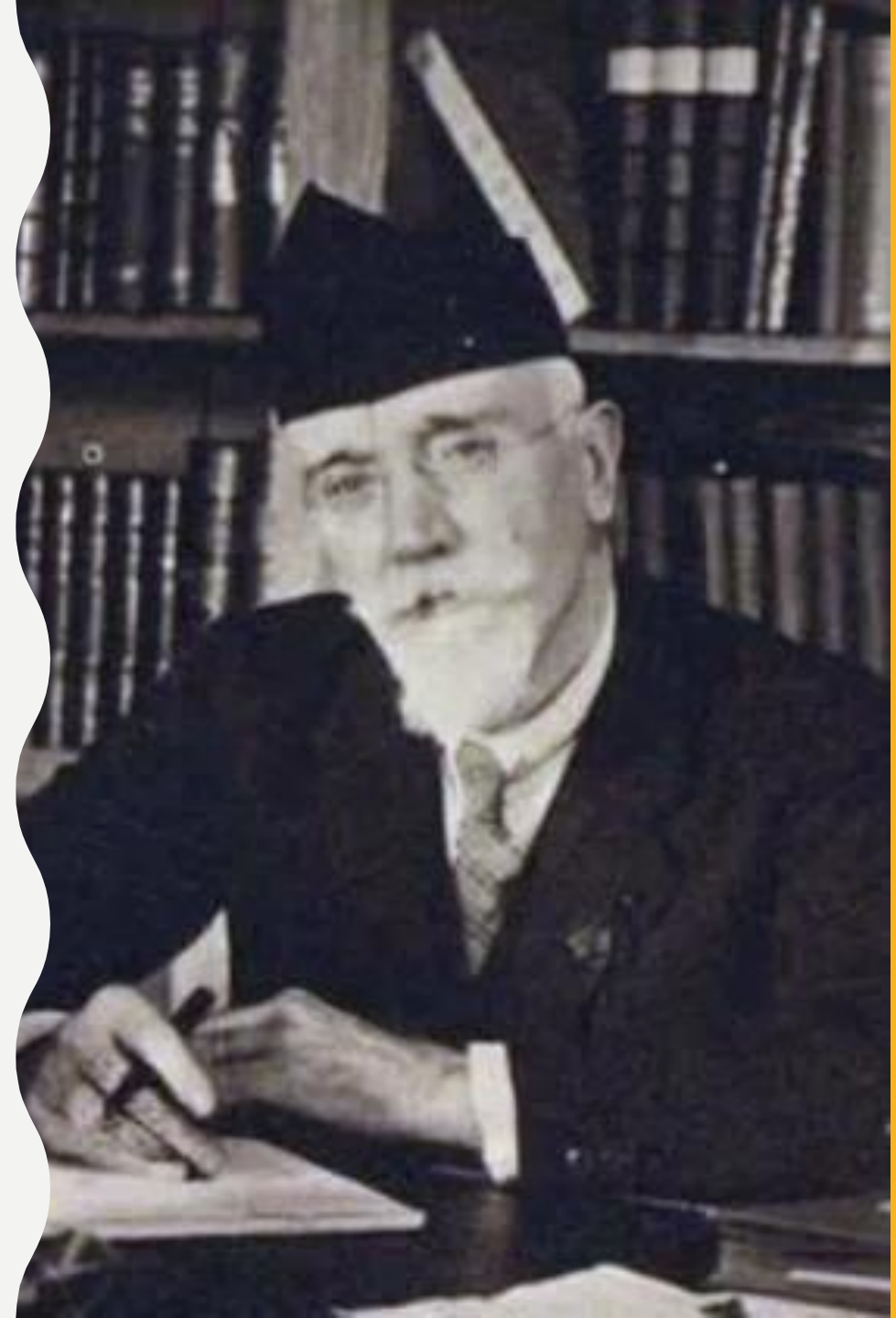
1910年代～1930年代

a. 憲法の改正

53の条項の修正、議員数の削減

b. 産業の発展

道路建設、郵便通信システムの改善



第4章

闘う政治家ヴェニゼロスの時代

2. 1912年～1923年 バルカン戦争

軍事再建によりクレタ島を含む新たな領土を獲得

国土面積は2倍、人口も200万人増加

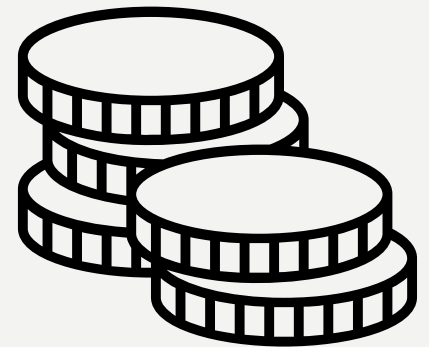
⇒ 内政・外交ともにギリシャ再生に貢献

◎ ギリシャの再建に成功

第5章

兄弟殺しー第二次世界大戦とその後

1. 1941年4月～ドイツ軍からの攻撃
ギリシャ経済の破壊や鉱物資源の奪取
ギリシャ人は飢えと超インフレに苦悩
2. EAMとELASの設立
 - a. **EAM** 民族解放戦線
 - b. **ELAS** ギリシャ民族解放軍



第5章

兄弟殺しー第二次世界大戦とその後

1. 内戦終了後のギリシャ

右翼政治家による支配体制

教育体制の改正

軍事政権の崩壊

ギリシャ人のためのギリシャの
第一歩



終章 現代のギリシャ

1. 1981年 ヨーロッパ共同体(ES)
への加盟
古代ギリシャの栄光の評価
2. 経済危機
1993年 GDPが1%まで低下
⇒ 欧州単一通貨ユーロの導入



結論

1. 列強の思惑に翻弄
2. 現代社会への認識

⇒ 近代ギリシャは古代ギリシャの大きな影との戦い

大国の狭間の誇り高き小国